

樹々の緑が芽吹くように 新たなワクワクが生まれています



そして、移住サポートセンターが、この度「3」とを愛称としてリニューアルしました。移住希望者の方はもちろん、村民の皆様や、村にお立ち寄りの方も含め、すべての皆様を繋ぎ、飯館村を発信していくステーションとして、3度と言わず何度でも訪れたい拠点となるようご活用いただければ幸いです。

5月20日から25日まで、福島テレビの「市町村ウィーク」で飯館村が特集されました。村内の多くの飲食店、宿泊施設、お買い物処のほか、貴重な映像なども放映され、お恥ずかしながら24日の道の駅での生放送に出演させていただきました。YouTubeに見逃し配信の映像がアップロードされていますので、ぜひ「福島テレビ 飯館村」で検索してみてください。

樹々の緑が芽吹くように、種々、新たなワクワクの芽が始めております。「飯館村ホッププロジェクト」も始まり、ホップの栽培にトライされる方も出てきました。一つひとつ、お一人ひとりのチャレンジが大きなワクワクの輪になり、村の活性化に繋がります。ふるさとの担い手の意欲と行動力が村を動かす原動力です。

新緑の5月。土屋品子復興大臣、平木大作復興副大臣、岩田和親経済産業副大臣のそれぞれ再度、再々度のご来村に加え、齋藤元彦兵庫県知事が来庁されるなど、いろいろな動きのある月となりました。

ゴールデンウィークには3回目となる「ワクワクおでかけマルシェ」が開催されました。回数を重ねるにつれ、どんどん大きな賑わいが生まれており、ご出店の皆様もご来場の皆様も、充実した笑顔を浮かべておられた姿がとても印象的でした。次回は「あぶくまもちの甘酒『アイス』」が出品されるかも、このお話もお聞きし、今からワクワクしています。

また、元飯館村職員が紡いでくれたご縁により埼玉県春日部市にて、「春日部藤まつり」や「大風あげ祭り」にも参加させていただきました。そして、今年3月に「根」をはる、「芽」を出す、「花」をつける、「実」になる」をモットーとして埼玉県から飯館村に進出された「CRSSスポーツ工業」様が、飯館村の風を準備して揚げてくださいました。私も何十年かぶりに風揚げで河原を走りましたが、童心に戻りつつ、天高く昇っていく風を眺め、晴れ晴れしい心持ちにさせていただきました。このときの「ワクワク風」を村役場入口の階段脇に展示しておりますので、ぜひご来庁の際にご覧いただければと思います。

■ひとのうごき

おくやみ

氏 名	年齢	行政区
赤石澤 一則 さん	82	大久保・外内
山 岸 キミエ さん	91	白 石
三 浦 嘉伊光 さん	91	小 宮
庄 司 久 雄 さん	65	深 谷

大火山つつじの森



ご冥福をお祈り申し上げます



(4月21日から5月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

ひとのうごき 令和6年5月1日現在

人 口	今 月 (前月比)	4月1日～30日までの人口動態
●男	2,333人(+1)	転入 12人
●女	2,274人(-2)	転出 10人
計	4,607人(-1)	出生 1人
世帯数	1,803戸(+1)	死亡 4人
		(住民基本台帳人口)

あぶくまもち 種子ほ場の田植え開始

5月20日、前田地区のほ場で、「あぶくまもち」の種子栽培が開始されました。

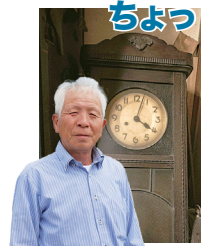
「あぶくまもち」は、県が高冷地向けの品種として開発したもち米で、現在飯館村では8.4haに作付けされています。今回は、青田豊実さん(前田)の種子ほ場で、役場や県の職員も一緒になり、25aの作付けを行った他、既に作付けしたほ場の補植も行いました。

「あぶくまもち」は福島県の奨励品種であり、現在飯館村でのみ栽培されているもち米です。今年度生産される「あぶくまもち」は、昨年に続きセブン-イレブン・ジャパンに出荷され、おこわおむすびとして販売される予定です。また、村民による加工品の開発も進められていて、「あぶくまもち」を使った焼き菓子などが商品化されています。



村民広報委員 富士男の

ちよっと寄り道 ②



!! 時間 !!

過日、いいたて希望の里学園の運動会を見る機会があり、児童生徒の、のびのびとした姿と仲間達と力強く演技する時間を垣間見る事ができました。

子ども達にも未来に対する希望の時間があるように、人にはそれぞれに色々に迎える時間があり、それぞれに家族で過ごす喜びの時間などもあると思います。たまには一人で過ごす優雅な時間であったり、もしかすると幼少の頃の思い出時間などもあったと思います。どんなにか、この「今を過ごす時間」が大事なことであるかを思います。私自身も70年を生きてきて、これから生きていく時間が、今までの時間よりも決して長くはない事を知っています。

何年前か前、大地震の後、避難している年配の人を、ある仮設住宅に訪ねた時、「飯館に帰ったら、また農業をやんだべー？」と聞いたところ、「おらには時間がない。歳とって畑、田んぼの土を作り変える時間がないから、もう畑、田んぼは作んねーんだ!」と言われた事があります。農業の難しさ、厳しさを知ったような気がして、ちよっと寂しく感じたのを覚えています。

老若男女、誰にも等しく大切な時間があり、大切な時間なのに、もう決して戻せない時間なのです。

いかに「今」という時間が、大切であり、大事にしなければならないかという事を、我が身を通じて知る必要があると、今、想っています。

